

種智院大學 同窓會報

第11号

平成4年1月25日

京都市南区壬生通八条下る東寺町545
種智院大学同窓会

新校舎竣工式 挙 行

平成3年10月4日、晴天の秋空のもと、種智院大学新校舎竣工式が挙行された。昭和61年夏に、将来計画の検討を發議、翌年10月「種智院大学企画室報告書」を策定して、新校舎建設にむけ、スタートを切って以来、星霜幾度、見事に完成し、明るく大きくなった新校舎は、歓喜の声を響かせ、新しい学生諸君を包みこんできた。

新校舎は、全面寄付による事業という、日本の私学に類例のない形で遂行された。この未曾有の事業を支えてきた同窓会の真骨頂がここに、その輝きを表わすことになったのであった。10月4日は、大学の喜びであると同時に、不遇の時代を耐えてきた同窓生にとって欣快の日でもあった。

午前10時30分、新校舎講堂にて、宗祖弘法大師の御前で、開式。理事長鷲尾隆輝猯下の導師により、般若心經一卷の御法樂を捧げた。式は種智院大学頼富本宏教授の司会で進行。鷲尾理事長がまず開式の挨拶。竣工式を迎えることができた御礼を述べるとともに、工事の完成をみずに先年ご遷化された前同窓会長であり元学長の故森諦圓猯下の遺影を示され、真言宗の根本道場である東寺の境内地にて、本学の礎を築いていくことをご教導頂いたことを述べ、本学のいっそうの発展と、経営本山、同窓会をはじめ多くのかたがたのご尽力に深い感謝の意を表された。

つづいて、学長麻生文雄猯下より挨拶があり、学長就任以来の重要課題である校舎竣工を迎えることができたこと、関係各位の絶大なるご支援を頂いたこと等に感謝と御礼を述べたうえで、多様化する今日の情勢のなかで、宗門の人材育成に大学関係者が粉骨砕身する努力をつづけていくことを述べ、新たな決意を示された。



次に、経過報告に入り、理事の川村俊朝泉涌寺寺務長様より勸募状況の説明があった。その概略は、9月末現在、約9億9千2百万円の寄付申し込みを頂き、本日（10月4日）までの概算では目標の10億円を超えたことが報告された。また、建築担当である理事の中山寺長老今井圓明猯下より、建設の發議、智積院境内地の仮校舎移転、新校舎建設着工から完成に到るまでの経過が説明された。勸募・建設の両面が見事一体化した本事業の経過

報告は、淡々としたなかにも、ひとつひとつを感慨深く聞き入ったことであった。

つづいて、来賓祝辞に入り、まず、総本山智積院化主藤井龍心猥下よりご挨拶を頂き、弘法大師のお言葉から、物事は野心があってできるのではなく、時に遭遇してはじめてできることを述べられた。長く本学にあって教鞭をとられ、苦しい時代を経験された猥下のご挨拶には、今日の晴れの姿を迎えた本学の未来を力強く示唆されるものがあった。次に、経営本山を代表して、仁和寺門跡松村祐澄猥下より、学園としての特色を今後ますます発揮し、清新なる教育をおこない、宗門の発展に寄与されんことを期待したい旨、ご挨拶があった。

さらに、同窓会長池田瑩輝猥下より、ご挨拶があり、「同窓生ではない理事長さん、学長さんが大学を思って頭を下げられている姿を見て、同窓生としてじっとしていられなかった」と勧募協力に至った同窓会の考えを示され、「母校の今日の姿を心から喜び」、さらに「これからは、建物だけではなく、内容の充実にも心を尽して頂きたい」と述べられた、同窓会として、校舎竣工記念に図書を贈呈することを発表された。同窓会が昭和57年に発足し、同62年から再び活動をはじめ、今日に至ったことには、この母校の事業と深く関連していたが、常に母校を見守り、母校の発展を思う同窓生の立場を代表して、更なる充実を願う意図を示されたのであった。

来賓挨拶の最後に、高野山大学長高木神元博士より、世界最古の大学であるイタリアのポローニャ大学よりさらに数百年古い綜芸種智院の歴史にふれ、綜芸の意味と庶民に開かれた学校であることの意義を述べ、私立学校の特色を如何なく発揮していくことが、発展につながることを力説された。宗祖弘法大師の建学の精神が日本だけでなく世界

的な意味も持っていることに気づかされたのであった。また、高木博士は、高野山大学が行っている「異宗教との対話」における、カトリック教会との交流の中でも、綜芸種智院の教育が高く評価されていることを述べられ、これからの教育のあり方に、示唆を与えるものでもあった。

つづいて、祝電が披露された。祝電をお寄せ頂いたのは次の方々である。(別掲) この中で、京都市長田辺朋之氏からは、次のような祝電があった。「種智院大学は長い歴史と伝統を有し、知識の向上と人間陶冶を教育理念に、仏教界はもとより、あらゆる分野で活躍する人材の養成につとめてこられました。新校舎の竣工により、21世紀に向けた新たなる構想のもと、一層の飛躍、発展を祈念しております」(要旨)

式の最後に、新校舎の設計を担当された佐藤総合計画(株)、施行の飛島建設(株)に、それぞれ鷺尾理事長より感謝状と記念品が、贈呈され、御宝号を唱和して、式を閉じた。



このあと、新校舎の見学が行われ、会場を京都国際ホテルに移して、祝賀会が開催された。祝賀会では、同窓生である吉田大治氏の司会により鷺尾隆輝理事長、麻生文雄学長の挨拶につづき、信貴山管長野沢密厳猥下、須磨寺管長小池義人猥下より祝辞を頂き、大覚寺門跡井上紀生猥下による乾杯の音頭で開宴。来賓祝辞がつづき、清水寺貫

主森清範猥下、高野真言宗より新居祐政宗務総長、同窓会副会長手嶋千俊御室派華務長、平岡英信清風高等学校長、横山繁久洛南高等学校長代理等、多くの方々からお祝の言葉を頂いた。また、藤井園子・宮本輝紀・池内毅彦氏らによるピアノ・シンセサイザーの演奏があり、祝宴にふさわしい華やかな楽音が会場にあふれた。最後に、種智院大学学生歌を、井上亮淳教授の指導のもと、本学学生諸君とともに、一同合唱してお開きとなった。出席者（竣工式・祝賀会を含む。順不同・敬称略。項目は竣工式準備委員会の受付名簿を参考としています。）

本山関係

松村 祐澄	田中 純應	福島 智秀
堀川 和海	手嶋 千俊	鈴木 鳳永
野沢 密蔵	井上 紀生	坂口 密翁
麻生 文雄	蔵本 亮弁	伊藤 観亮
池田 瑩輝	今井 圓明	石堂 恵教
鷺尾 隆輝	岩橋 政寛	国定 浄運
藤本 浄海	川村 俊朝	安井 玄純
加藤 勝真	高吉 清順	小池 義人
市橋 真明	藤井 龍心	石川 良泰
新居 祐政	佐藤 智仙	吉川 律城
北川 亮暁		

同窓会

峯 孝雄	澤 実英	野路井宏之
峰 覚海	城光寺哲立	桑田 善照
森田 龍雄	河邊 延應	篠畑 俊成
秦 祐智	山田 達圓	前田 和連
石坪 昭真	遠山 本良	若田 真英
英 真恵	宝山 眞海	菊入 卓如
香川 龍暁	国定 道晃	長谷 法寿
前川 浩長	恒松るり子	北村 太道
土屋 博秀	玉山 順彦	竹中 弘明
栗原 探乗	平見 純雄	水谷 修夫

森 見章	宇喜多恵隆	手塚 節
手塚 利貞	本郷 晋海	棟広 照文
祝 宏友	木田 宥岳	松村 実秀
田畑 祐弘	松尾 初子	村岸 定光
前嶋 義雄	阿河 真善	松本 安正
石原 高喜	安室 舜海	安東 法秀
奥寺 知光	木村 大廣	光澤 宏仁
宇喜多恵隆	生駒 研性	杉 慎吾
原 慶喜	豊福 光禅	大橋 昭雄
薬師寺穆王	幡山 寛念	佐藤 真榮
江坂 宗純	八木 龍生	東田 教範
平尾 恵燈	畠田 禅峰	久米 秀信
藤田 研道	神野 龍幸	喜多村龍鳳
新野 正憲	稲佐 俊明	北脇 良哲
長谷 清彦	法本 弘文	水谷 泰彦
石川 重元	壁瀬 宥雅	井上 亮淳
嶋 裕海	都筑 大乘	

後援会（寺院・個人・企業）

田中 定完	山本 秀順	高橋 隆天
大谷 純仁	佐々木龍宝	仲尾 俊博
藤井 龍和	高井 隆秀	鳥越 正道
森 清範	大森 光祥	荒谷 實善
山崎 泰廣	頼富 本宏	喜多川義晃
河野 清晃	東山 光秀	松岡 秀禅
前田 孝道	児玉 公慶	中川 英尚
沖 和史	浅井 戒雅	滝村 雅人
福田 泉正	佐藤 久光	横山 繁久
中村 幸子	吉田 元	藤井佐兵衛
市川 寿久	山口 義明	荻谷 定彦
宮城洋一郎	田村 隆照	児玉 義隆
(株)佐藤総合計画	深田(株)	(株)奥谷組
西京コクヨ	田中 伊雅	森田和紙
飛島建設	三法堂	今井半念珠店
上田法衣店	大住法衣店	

大学・学園関係

高野山大学 嵯峨美術短期大学
 龍谷大学 大谷大学 京都女子大学
 仏教大学 華頂短期大学 西山短期大学
 洛南高等学校 清風高等学校

企業関係

郡リース 京神運送 京都銀行九条支店
 三井信託銀行京都支店 太陽神戸三井銀行
 東寺支店 松本額縁 八条郵便局
 丸善(株)京都支店 法蔵館 富士ゼロックス
 京都支店 高野山出版社 京都新聞報道部
 六大新報社 文化時報 中外日報

父兄

木村 孝禅 東 秀和 山口 初枝
 伊藤 晃次 石谷 智親 松山 孝昌
 林 美智子 織田 果俊 岡本 俊光
 奥居 郁男 細野比呂子 鷺田 清一
 細川 益邦 芝 祐弘 橋本多恵子
 川浪喜代次 相馬 明長 冨田 清行

上田 凱彦 阿部 矩久 田島 昇
 水原 昭山 中澤 勝三 尾崎 正泰
 加藤 直 梶原 玲 溪村 彰
 池上 幸範 浅野 芳宏 黒川 淳
 福家 弘 池田 慧玄 今里 寿徳
 岩崎 新 赤塚 忠昭

大学・法人職員

金井 良徳 清水幸次郎 吉水 仁
 濱田久美子 佐藤ひさ代 竹内 康夫
 野田 直美 衣川 俊雄

祝電 (電文略、順不同・敬称略)

藤井 龍心 小松 道圓 筑波 常遍
 鶴見 照碩 小林 隆仁 山本 秀順
 宮沢 喜一 田辺 朋之 石川 良泰
 民岡 哲雄 吉田 裕信 高木 神元
 林 亮勝 濱島 義博 盛永 宗興
 井上 太一

「西院流能禅方伝授録」全七巻

加藤宥雄編

定価 六五、〇〇〇円

「八結・金玉・異水伝授録」全一卷

加藤宥雄編

定価 一三、〇〇〇円

「西院流伝授手控」

土宜法龍筆
加藤宥雄筆写

定価 二、〇〇〇円

「堂上儀西院流傳法灌頂教授手鑑」

加藤宥雄筆写

定価 三、〇〇〇円

「東寺定額僧院之血脈相承次第」

定価 八〇〇円

「密教の世界―不動明王と莊嚴―」

定価 一、五〇〇円

高井隆秀教授 還暦記念論集 『密教思想』

定価 八、〇〇〇円

種智院大学 密教学会

京都市南区壬生通八条下る東寺町五四五

☎(075)681-1651 136011

振替京都〇一三〇三八

【同窓会だより】

正副会長会開催 平成3年10月4日(金)竣工式に先立って、先般の同窓会総会において確認された、①竣工記念事業として百万円を支出し、その具体的内容は正副会長に一任する。②次年度任期満了を迎える役員改選に関して、役員候補者を推薦する委員会を常任幹事より選出し、その委員については十名程度とし、具体的人選は正副会長に一任する。この二件について、審議することになった。会は、あらかじめ書面にて、ご意見を頂く形で行われ、当日は、書面回答をふくめて、審議することになった。その結果、次のように決定。

①については、図書を贈呈すること。

②については、委員会の名称は、役員候補推薦委員会とし、下記の方々をお願いすることになった。

出席者(敬称略)

池田 瑩輝 手嶋 千俊

書面回答(順不同・敬称略)

蛸田 弘教 新出 秀計 淵川 利昭

喜多村龍鳳

役員候補推薦委員会(順不同・敬称略)

手嶋 千俊 岩橋 政寛 篠畑 俊成

森 見章 川崎 龍性 松村 実秀

沖田 定信 土屋 博秀 田畑 祐弘

第一回会合を平成3年12月2日(月)午前11時より開催。代表に手嶋千俊師を選出し、今後の進め方、および具体的な役員候補者の推薦について、協議した。

出席者(順不同・敬称略)

手嶋 千俊 岩橋 政寛 篠畑 俊成

森 見章 土屋 博秀 田畑 祐弘

【支部だより】

京都支部

支部総会を平成3年7月20日(土)午後1時より大学会議室にて開催。平成2年度事業報告、決算報告、および平成3年度事業計画・予算案等を審議し、予算案の一部を修正して承認。つづいて、母校の現況報告、勧募状況ならびに京都支部における状況等もあわせて報告があった。母校の現況を考え、今後も勧募活動を継続していくことを確認。

総会終了後、同窓会副会長で総本山仁和寺華務長である手嶋千俊先生より「花のいのち」と題して、記念講演があった。長年華道に携わり、華道界の重鎮としてご活躍の先生の講演は、華道の歴史と美しさに対する考え方、花の見方について、有益な示唆を与えて下さるものであった。

出席者(順不同・敬称略)

安井 玄純 手嶋 千俊 岩橋 政寛

川村 俊朝 篠畑 俊成 本田 隆保

石坪 昭真 市橋 眞明 宝山 眞海

黒坂 堯栄 都筑 大乘 恒松るり子

〔大学〕

吉田 元 宮城洋一郎

兵庫支部

支部総会を平成3年7月26日(金)午後5時より神戸市中央区のホテル全但にて開催。支部長今井圓明中山寺長老の挨拶で開会。母校の現況を報告するとともに、完成なった母校校舎に魂を入れていくことが、これからの課題であることが述べられた。また、大学から神戸市在住の山崎泰廣教授より、母校校舎完成の御礼が述べられ、教育の充実・発展に力を尽くしていくことが力強く述べられた。また、同じく頼富本宏教授より、10月4

日の竣工式の案内と多数の方々のご出席の依頼が披露された。つづいて、総会に入り、祝宏友幹事より、平成元年以降の会計報告があり、これを了承。

平成3年2月、大本山中山寺長老にご就任なった支部長今井圓明猥下を顧問に推戴申し上げること了承。後任の支部長に、水谷修夫師を推挙すること、また会務のお世話を足立有教師にお願いすることを全員一致で了承した。また、同窓会長池田瑩輝猥下も出席され、母校のこのたびの事業に力を尽くされた支部の皆様への御礼と同窓会の発展のため、引きつづきご協力をお願いしたき旨挨拶があった。

総会ののち、懇談に入り、母校の現況について意見を交換。さらなる充実・発展のため厳しく見守っていくことが話し合われた。

出席者（順不同・敬称略）

田中 正信	水谷 修夫	高見 寛康
手塚 利貞	森 見章	今井 圓明
山本 隆弘	足立 有教	池田 瑩輝
祝 宏友	田中 壽学	当津 善應
山本 泰弘		

〔大学〕

山崎 泰廣	頼富 本宏	宮城洋一郎
-------	-------	-------

九州支部

支部総会を平成3年9月4日（木）午前11時より佐賀県武雄市武雄温泉ハイツにて開催。北脇良哲師の開会ではじまり、支部長稲佐俊明師の開会挨拶があり、総会に入った。本部同窓会の報告、支部の会務報告があり、九州地区の勧募状況について説明があった。またあわせて、大学より吉田元教授が改善事業の報告をおこない、もう一步のご支援をお願いし、竣工式への出席を依頼した。

支部長稲佐師より、任期がきたので退任したき

旨の申し出があり、新支部長の人選について、継続して話し合っていくことを確認した。

総会ののち、懇談に入り、大学の現況に関する質問が集中。将来計画の具体案、学生の就職状況等について、提案・意見が活発に出され、母校の将来を絶えず見守って行くことが話し合われた。

出席者（順不同・敬称略）

稲佐 俊明	後藤田寛昌	宮本 真光
杉岳 覚英	原 龍馬	北脇 良哲
森 光栄		

〔大学〕

吉田 元

【大学だより】

夏目祐伸教授追悼法要

平成3年10月14日（月）午前10時30分より、本学講堂にて挙行。麻生文雄学長を導師に御法楽。つづいて、麻生学長による弔辞があり、また、夏目先生が主任であった一般教育研究室より、同副主任の宮城洋一郎助教授より追悼文が読まれた。引きつづいて、参列者の焼香があり、学部長高井隆秀教授、井上亮淳教授はじめ教職員、同窓生、ソフトボール部員、在学生があいついで焼香。同窓生の市来快延師は「在学中、夏目先生には大変なお世話になった、一生懸命励ましてくれた先生を思い、今日は急ぎ かけつけました」と述べられ、先生の御人徳の深さを改めて思うことであった。

なお、夏目先生最後の論文「中国仏教成立に関する一考察」は、平成3年12月刊『密教学』第27号に掲載されている。